

第 1 回

■講演 「知的財産権の基礎知識と取得事例」

講師 塩川内外特許事務所 代表 塩川 修治 氏

■ワーキンググループ現況報告

■日時 平成 20 年 6 月 23 日（月曜日） 午後 5 時から 6 時まで

■会場 富士市消防防災庁舎 7 階大会議室（富士市永田町一丁目 100 番地）

■概要

1 「知的財産権の基礎知識と取得事例」の概要

講演の主な点は以下のとおり。

(1) 知的財産権の種類

産業財産権・・・知的財産権のうち特許権、実用新案権、意匠権及び商法権をいう。

ア 知的創造物についての主な権利－創作意欲を促進

特許権（特許法）、実用新案権（実用新案法）、意匠権（意匠法）

※公に知られていないもの。有効期限あり

イ 営業標識についての主な権利－信用の維持

商標権（商標法）

※新しいものでなくて可。半永久的

(2) 失敗例

商品開発には特許がリンクしていなければならない。特許が得られていないと折角自社で開発した商品等が自由競争になり、利益を得にくくなる。こうした中、特許についての失敗例としては、アイデアのみの先行、公表前に未出願だった、といった例の他、特許の未調査がある。

特許の未調査は、特許の洗願等の調査をせずに新商品を製造、販売すると既に同じような商品が販売されていたり、最悪の場合は、第三者の特許権等に抵触することが起こり、不利な状況になる。特許権に抵触する否かの調査は、特許庁の特許電子図書館等で自分でも可能だが、正確さを求めるには、弁理士等に依頼すべき。

(3) 事例報告

事例報告として以下の 2 件の報告がなされた。

ア セメント生瓦事件

《東京地裁 昭和 55 年 4 月 23 日判決（昭和 53 年（ワ）第 9231 号）》

本件発明の特許出願の願書に添付した明細書の特許請求の範囲の記載は、次のとおりである。

「下面をセメント瓦成型用上型と同形に形成し多数の小孔を穿設した中空の吸引器を昇降自在に設け、且つ該吸引器内を真空源および大気に通じさせる切換弁を設け、該吸引器がセメント瓦成型機の下型から吸着した生瓦を受板上に接近させ受板と生瓦との間に緩衝作用を行なう空気層を介在させた状態に於て当該生瓦を受板上に落下させるように切換弁を動作させることを特徴とする生瓦受取装置」

■裁判所の判示事項

クレーム中の「受板と生瓦との間に緩衝作用を行なう空気層を介在させた状態に於て」

とはどのような技術的構成をいうのか不明である。

したがって、本件特許発明と被告製品との対比すらできないから、被告製品が本件特許発明の技術的範囲に属するとはいえない。

イ アイスクリーム充填苺事件

《東京地裁 平成16年12月28日判決 (平成15年(ワ)第19733号)》

本件発明の特許出願の願書に添付した明細書の特許請求の範囲の記載は、次のとおりである。

原告の本件請求項1は、「芯のくり抜かれた新鮮な苺の中にアイスクリームが充填され、全体が冷凍されているアイスクリーム充填苺であって、該アイスクリームは、外側の苺が解凍された時点で、柔軟性を有し且つクリームが流れ出ない程度の形態保持性を有していることを特徴とするアイスクリーム充填苺。」である。

■裁判所の判示事項

本件明細書においては、「寒天及びムース用安定剤」を添加すること以外の方法によって、アイスクリーム本来の食感を失わず、かつ、苺が解凍された時にも形態保持性を維持することができるアイスクリームを製造することができることについて、何らの記載もない。

被告は、本件出願前に、原告から提供されたアイスクリーム充填苺をデパートに持参し、これを担当者に試食してもらい、また商品仕様書(本件特許明細書の実施例に記載の組成と同一の組成が記されている)をデパート等に開示した。従って、本件特許発明は、特許出願前に公然実施され、公知となっていたものというべきである。

原告は、本件出願前に提供したアイスクリーム充填苺には欠陥があり、本件特許発明とは構成を異にすると主張するが、そうであれば、本来、明細書において従来技術として自らの製品を掲げた上で、その問題点及びそれが本件特許発明により解決された旨を記載しているはずであるのに、原告は、本件明細書において従来技術としてこれらにつき何ら言及せず、その内容を示す客観的な資料を一切提出しないが、このような原告の態度は誠実な特許出願人として当然とるべき行動からほど遠いものといわざるをえない。

2 ワーキンググループ現況報告

各グループ長から、各グループの現況について報告がなされた。

(1)グループ1 「数人が浸かることのできる足湯の開発」

説明者 技術士事務所トーテック 所長 松坂 孝 氏

(2)グループ2 「フィットネスウォーキング用ポールを応用したリハビリ用杖の開発」

説明者 富士テクノサポート 代表 中田 幸次郎 氏

(3)グループ3 「暗闇でも確認できる医療現場のツール」

説明者 高木産業株式会社 参事 渡辺 節雄 氏

(4)グループ4 「使う立場で考える車椅子、歩行器」

説明者 株式会社ホリックス 代表取締役 堀内 喜久二 氏

3 「静岡県試験研究機関プロジェクト研究について」

説明者 静岡県工業技術研究所えん下改善プロジェクトスタッフ 主任研究員 杉山 直人 氏

平成20年度～平成22年度に実施される静岡県試験研究機関プロジェクト研究について、研究課題である「高齢者の自立を促進する医食工連携による誤嚥性肺炎の総合的予防」を静岡県工業技術研究所、聖隷三方原病院で実施していくことや、研究目的、研究内容、経過計画が述べられた。

■講演 「中小企業連携の重要性と各種施策の有効活用」

講師 東成エレクトロビーム株式会社 代表取締役 上野 保 氏

■ワーキンググループ現況報告

■日時 平成 20 年 10 月 2 日（木曜日） 午後 5 時から 6 時まで

■会場 富士市消防防災庁舎 7 階大会議室（富士市永田町一丁目 100 番地）

■概要

1 「中小企業連携の重要性と各種施策の有効活用」の要旨

講演の主な点は以下のとおり。

- ・東成エレクトロビーム株式会社の本社は、東京都瑞穂町。設立は 1977 年。資本金は 8,500 万円で従業員数は 100 人。売上高は 2008 年 3 月期で、12 億 3,000 万円。取引先数は 3,000 社。事業内容としてはビーム加工（EB、LB）、エンジニアリング。経営目標はジョブショップ（受注加工）、エンジニアリング、自社ブランド
- ・要素技術としては溶接、除去、剥離、切断、ベンディング、穴あけ、マーキング、表面改質、計測といった技術を持っている。また、当社の加工技術応用例としては、日本の宇宙開発－人工衛星、宇宙観測、航空機部品（軍事関係、民間航空会社関係）、輸送－自動車（トランスミッション、ABS 等）、環境－燃料電池、ロボット、原子力－高速増殖炉、原子力発電所、再処理施設等々幅広い分野で社会に貢献している。
- ・当社のビジネスモデル確立の経緯として電子ビーム、レーザを中心に最先端高額加工設備を取り揃えることで、多くの大手メーカーから高度な加工業務を受託。発注者である大手メーカーにとっては、実績のない高額設備を導入し、設備オペレーションのために人材教育を施すなど手間とコストが省けるほか、試作、実験やそれらに伴う研究開発をそのまま当社に外注できるため、当社を通じて付加価値の高い製品開発をスピーディに行うことが容易になった。また、多くの大手メーカーから加工作業を受託することで当社に技術が蓄積し、単に加工を請け負うだけでなく、大手メーカーの技術課題を解決すべく技術提案も可能になったことが、さらなる信頼の構築に繋がっている。
- ・産業のグローバル化が進む中小企業の現状として受注側の現状、発注者側の実情や社会ニーズと産業構造の変化について述べ、こうした中、国内産業の変化（ものづくり）は特に、ものづくりのスピードアップ（生産の仕組の改善）、企業間取引のスピードアップ（電子商取引）、顧客ニーズの先取り（情報の分析）により今後は戦略的 IT 化が必要であることを強調
- ・経営革新支援法 3 法、新連携、中小企業ものづくり高度化法等の中小企業施策の有効活用を。技術開発と産学連携の効果的事例として立川商工会議所が産学官の研究コンソーシアムの管理法人として成功している現状がある。各機関もこうした管理法人としてコーディネートに取り組む必要があるのではないか。
- ・中小企業は、内部の経営資源が不足（ヒト、モノ、カネ、特に情報とネットワーク）している。これからは自助努力（ビジネスモデル、資金対策、人材育成）、外部の経営資源を活用（地域活動、支援機関、自治体・国の支援策）することが必要。一方、中小企業が抱える問題の中でノウハウの蓄積、特許申請といった知財への取組みが重要課題
- ・地域の産業活性化のキーワード
地域特性（行政、大学との関係、大学への提言、商工団体、支援機関、支援機関（地域金融機関）、中小企業経営者）
- ・中小企業の技術開発と経営課題

(1) 変化の予兆（きざし）をつかむ。(2) 経営者の意識改革 (3) IT経営に活かす。(4) 技術の目利きと事前の営業活動 (5) モノづくりのノウハウの蓄積 (6) 自社の強みを活かし、提案する。(7) 後継者の選択と育成

・ 中小企業の経営戦略

(1) 業界ナンバーワンの技術力を追求（お客様の満足度を向上し、役に立つ会社） (2) ネットワーク (3) 公の活用（相談、支援、助成、補助、紹介） (4) 変化への即応 (5) 夢を持ち自社の10年プランを作る。

2 ワーキンググループ現況報告

各グループ長から、各グループの現況について報告がなされた。

(1) グループ1 「数人が浸かることのできる足湯の開発」

説明者 技術士事務所トーテック 所長 松坂 孝 氏

(2) グループ2 「フィットネスウォーキング用ポールを応用したリハビリ用杖の開発」

説明者 富士テクノサポート 代表 中田 幸次郎 氏

(3) グループ3 「暗闇でも確認できる医療現場のツール」

説明者 高木産業株式会社 参事 渡辺 節雄 氏

(4) グループ4 「使う立場で考える車椅子・歩行器」

説明者 株式会社ホリックス 代表取締役 堀内 喜久二 氏

視察研修

■視察先 HOSPIX JAPAN 2008

■日時 平成20年11月14日（金曜日）

■会場 東京ビッグサイト東展示棟（東京都江東区）

■要旨

HOSPEX JAPAN 2008 は、医療、福祉関係者、建築、設計関係者合わせて36,000人超が新しい情報、サービスを求めて集う国内最大規模の医療、福祉関連展示会である。

「施設の建設、増改築、業態変更」、「効率的な経営手法」、「情報化の推進」、「感染防止対策」など、医療、福祉関係者が日々抱える問題を解決するための一助となる機器、製品を約200社が発表していた。

展示構成は、「建築、設備、エンジニアリング」、「医療機器」、「介護、福祉設備機器、用品」、「医療、福祉情報システム」、「医療、福祉向けサポートサービス」で、中には院内感染対策コーナー、臭気対策コーナー、物品、物流管理コーナーといった集中展示企画もあり、来場者は熱心に各ブースにおいて説明に聞き入っていた。

また、展示だけでは表現しきれない新製品、新技術の説明や、医療、福祉業界が直面する諸問題の解決策を入場者に発表する場としての「ソリューションプレゼンセミナー」、看護師をはじめとした医療現場で働くすべての人に向けて、医療事故を防ぐME機器の取り扱い方を実演を交えて解説する、といった「特別企画」も併設され、多くの関係者で賑わっていた。

当交流会参加者にとっても今後の研究開発に向けて参考となる点も多くみられた。

第 3 回

■講演 「富士市の救急救助の実態と必要とされる機器開発のヒント」

講師 富士市消防本部警防課 救急救助担当 大村 高之 氏

■意見交換会（分科会）

■日時 平成 20 年 12 月 3 日（水曜日） 午後 5 時から 6 時まで

■会場 富士市消防防災庁舎 7 階大会議室（富士市永田町一丁目 100 番地）

■要旨

1 「富士市の救急救助の実態と必要とされる機器開発のヒント」の要旨

救急業務の概要、富士市での概要について、事故種別活動状況、救急救命処置の状況といった救急現場での現況報告がなされた後、その救急現場において必要と思われるモノ、このように改善できたらいいモノ等、業務の改善に役立つと思われる主に機器やコンピューターシステム面について提言、要請、意見が述べられた。

こうした開発のヒントに向けた説明等を受け、参加者から活発な質疑がなされた。

2 意見交換会（分科会）

前段の富士市消防本部警防課救急救助担当 大村 高之 氏の講演で得た開発に向けたヒント等を含めた感想や意見交換を 3 グループに分かれて行なった。

座長（進行）は、技術士事務所トーテック 所長 松坂 氏、東海大学 教授 影山 氏、株式会社 ユーディーエム 代表取締役 漆畑 氏の 3 人。

3 グループともに大村 高之 氏の講演で提案された開発のヒントや各々が持つアイデア等について活発に意見交換が行われた。

本日の意見も参考にしながら、今後、新たなワーキングテーマの掘り起こしを検討していく。

第 4 回

■講演 「モノづくりで 150 億円を生む独創発想術～ビジネス創造の極意～」

講師 株式会社事業創造研究所 会長 中西 幹育 様

■日時 平成 21 年 1 月 20 日（金曜日） 午後 2 時 30 分から 5 時 30 分まで

■会場 富士市文化会館ロゼシアター1 階一般展示室（富士市蓼原 1750 番地）

■要旨

最初に、中西氏自身から職歴、豊富な経験談が述べられ、こうした経歴に基づいた形での講演がなされた。講演の主な点は以下のとおり。

- ・これから 21 世紀は熱と光と自然エネルギーの活用。熱、光、電磁波がキー
- ・企業の本質 顧客の求める商品、サービスを提供することが基本
原点 時代とともに人間の欲求は進化するものである。自然な人間の欲求を 正しく理解し得ることが企業の政策展開に必要な条件となる。
- ・経営の基本 経営資源（人、物、金、情報、時間）、経営ビジョン
- ・開発に向けてのポイント
視点、観点を変えることのできる目、潜在している何かを顕在化させる目
時には大胆に、日々はきめ細かく、小回りを利かせて
- ・開発のヒント～中小企業の生きる道～
ニッチ（隙間）産業、差別化、独創性、独自性が生きる。

- ・市場、PAT、確認の交差点 技術のハイブリッド
- ・新規ビジネスを成功させる三つの要素
マーケットチャンスをつかむ、起業化自身の資質（成長の可能性大、経営陣の資質を含む。）、成長に必要な財源
- ・チャンスを見極め、チャンス成長ビジネスに変えていくスキル チャンス到来予測とそれに対する準備ができるか？ スピードが重要
- ・ピーターズ・カフェ 世界の海を駆け巡る船長と船員たちの休憩場所
- ・三つの力が合わさると交差点が生まれる！
第一の力 人の移動、第二の力 科学における相互乗り入れ、第三の力 コンピューター技術の飛躍的向上
- ・日本のピーターズ・カフェ！ 北海道テクノロジー・ネットワーク研究会、アース研究会、しみず新産業開発振興機構、KANSAI 仕事づくりの会、さぬき商工会等
- ・発明人生 40 年
教訓 1 先人の知恵 発明とは、先人の知恵をできるだけ多く知ることから始まる。多岐に渡る知識の集積と本質を知ることが原点である。
教訓 2 発想力 発明とは、発想力は、既存のアイデアを元に新しい科学及び知識を組み入れ、時代の欲求に応えるべく新しい価値を創造することの繰り返しにより鍛えられる。
教訓 3 情報の整理整頓 情報の収集、選択、組み換え、情報を整理する能力がポイント
教訓 4 ナレッジサイエンス 情報の質と量を高める、暗黙知の重要性
教訓 5 研究開発とは 明確に問題点を抽出する。
- ・企業が望む人材
コミュニケーションができるー情報が集まり、新しい事業が生まれる
上下関係の秩序ができるー取引先、社内での良好な関係をつくる。
発想が生まれる、問題定義ができるー問題が分かる、改善ができる。
実際に、自分の手を動かし、確認する習慣ー自ら手を動かさなければ何も生まれない！

この後、中西氏が関わり世に出た α GEL やその応用商品、水圧転写を利用した三次元曲面印刷法 (CUBIC PRINTING) の開発経緯や製品説明とともに新事業の創出、展開としてとしてスパイラルクーラー、農業用油圧機器の自然冷却式オイルクーラー、太陽熱コレクタ、LED 街路灯放熱対策試験、インダクションモータの放熱対策試験等の説明が成された。

こうした開発のヒントに向けた説明等を受けた後、参加者からの質疑も出され後、講演会を終了した。

- 1 団体の名称や人物の肩書、各種制度の内容は講演、視察等の時点のままですので、御留意ください。
- 2 静岡県中小企業団体中央会が作成した原稿を基にしています。



主催 富士市 産業経済部 産業政策課
〒417-8601 静岡県富士市永田町一丁目 100 番地
電話番号：0545-55-2779 E-mail:sa-sangyou@div.city.fuji.shizuoka.jp

事務局 静岡県中小企業団体中央会 東部事務所
〒410-0881 静岡県沼津市八幡町 7 番 1 号
電話番号：055-963-4511 E-mail:fuji-ikoukai@siz-sba.or.jp